

【 『統合失調症は癒える』から(その2) 】(南部)

中井久夫先生(神戸大学名誉教授)が8月8日に88歳で亡くなられた、とニュースで知りました。中井先生は京都大学を卒業後、東京大などを経て1980年、神戸大医学部教授に就任。統合失調症研究の第一人者として先駆的な診療法で高く評価され、阪神・淡路大震災では被災者の精神的なケアに尽力され、文筆家としても多くの業績を残されました。改めましてまずは中井久夫先生のご冥福をお祈りいたします。

この本の統合失調症の治療の章では、精神科治療には薬物療法と精神療法があると記載され、まずは精神療法から記載されています。やはり、薬より精神療法が重要なのでしょう。

「治療の目標」は「患者が安心して治れるような条件をつくること」であり「病状への対処」という観点からは「幻聴をなくす」という治療目標よりも「心身の余裕を回復する」「安心して過ごせる条件を整える」と考える、と提案されています。そして、治療の手順は、鎮静→休息→賦活(元気づけ)であり、治療で一番難しいのは、この賦活(元気づけ)です。まずは、本人の自然な自己賦活が望ましく、周囲はむしろ軽く抑え気味が良いと書かれています。下記要約させていただきます。

治療法① 支持的療法か切開的療法か

支持的療法は「あなたは人間であり、生きる権利がある」を元に全人的な支持による信頼関係を元にした治療です。一方、切開的療法は信頼関係が確立した後に、本人のこころの秘密を言葉にして語っていただき、こころのキズやしこりを明るみに出す治療法であり、非常に高度な手法で、一人の患者に1・2回が限度で、基本は信頼関係であると説明されています。

治療法② 患者を変化させようとするか、現状を安定させようとするか

患者には安定が先にあり、それがあってこそ、患者は変化しようとするのです。また、変化しようとしても、患者の能力一杯を使ってはいけません、何事も焦らず、ゆとりをもって変化することが重要です。

治療法③ 患者を強くするかどうか

私たちは患者を弱くする言動を無意識に行っています。患者を凹ませたり、子供扱いしたり、納得していない結論を押し付けると患者は弱くなりますのでこの反対を意識しておけば患者はいつの間にか強くなっていくのです。

治療法④ 言語か非言語か

言語的治療と言っても、言葉の意味のみでなくて、その際の音調が非常に重要であり、その時と場所と機会(TPO)が大切です。言葉も大事ですがそれ以外も大事ということです。

治療法⑤ 個人的な精神療法と集団的な精神療法

残念ながら明確な記述はなく、勉強してくださいとのみ記載されています。作業所等の当事者同士の会話等は、人間関係の訓練や社会生活の訓練に役立ち、社会に出る前段階として非常に効果があると信じます。





明石ともしび会よりお知らせ

相談窓口	日時・内容		場所
こころやすらぐ ひろば (相談と居場所 です)	9月4日(日)	11時 ~15時	【昼食】クリームシチュー、きのこのバター炒め、サラダ 担当：山田、濱野
	9月18日(日)		【昼食】ドライカレー、サラダ、切り干し大根、味噌汁 担当：山田、濱野
こころの 相談窓口	9月12日(月) 9月26日(月)	10時~14時	担当：岩永、二本松 明石市立 勤労福祉会館 「あすく」